



葉隱問書

九

業限同書

九

副 063
10

副 61

業隱回書九

此一卷才七八回  
涉不法事一應略也

一 寶永十四年

勝茂公法集初一卷古同及安順法中一

私孫安作年古亦付以有改智心以方沙而予一法及  
法何付以札亦一第山一付定飛及一法何付以二十餘七也  
此方知有馬系一檢録法何境事一較法何如  
付史何及法何也九書何了自第何之法何組浦一法  
是片何之有之相定山江身也 勝茂公之法何洋法何  
傳何市依何法何組一沙書何法何也何何及何何  
也遠年一也

一

傳何心之方古存何上何年

生之集何何何

赤坂公所史物極、古産を主也。此中山府法政法地、  
以、劉忠極、花溪極、法位牌、此山終、此山、此山、高  
傳、法位牌、法位牌、此山、此山、此山、此山、  
又、此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、

一 下村史雲、登城、此山、直、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、

此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、

一 水山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、

一 相浦、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、  
此山、此山、此山、此山、此山、此山、

上落し時 物茂云流法は此の流旅宿に各法年寄京丹  
信流中及下流状事、付流返書、使相浦流在るに信  
位流及下流旅、抄事如流也 地色京丹の流在るに信  
流在る也 云我不安流之二陣流旅、抄事、流云、園書  
素山流清流、見むらうらうと相見、に捕流、平とい  
付、相実立、了、抄、高、中、と、信、流、在、ら、存、と、う、一、の、  
高、て、流、法、状、と、水、一、に、流、多、く、故、一、中、に、不、流、法、事、  
主、流、性、不、流、事、抄、実、也、信、流、信、流、云、京、丹、流、及、京、丹、  
奥、中、に、流、が、流、云、美、流、事、に、付、流、返、分、三、流、在、ら、中、に、  
京、丹、流、信、流、事、京、丹、に、是、に、京、丹、信、流、事、入、之、状、抄、集

結、と、下、丹、流、事、及、流、交、信、流、事、京、丹、に、と、我、事、と、見、知、  
り、京、丹、に、信、流、事、京、丹、に、丹、流、事、及、京、丹、に、  
此、人、初、而、初、く、不、事、流、事、と、お、世、に、流、流、事、年、に、我、事、と  
見、知、事、に、流、流、事、に、は、信、流、事、京、丹、に、釋、り、り、京、丹、に、我、事、流、事、  
と、中、に、に、付、流、事、と、流、流、事、流、事、と、京、丹、に、是、に、  
京、丹、に、流、事、と、相、事、抄、と、此、方、に、流、事、と、京、丹、に、  
事、と、中、に、流、事、と、京、丹、に、流、事、と、京、丹、に、  
京、丹、に、流、事、と、京、丹、に、流、事、と、京、丹、に、  
京、丹、に、流、事、と、京、丹、に、流、事、と、京、丹、に、  
京、丹、に、流、事、と、京、丹、に、流、事、と、京、丹、に、



少子より成いし様なら力とけれ候と痛め申し候へ  
山椒及び力を増し候はし候へぬと云はれ候し  
い時様なら候と云はれ候はし候へぬと云はれ候し  
首に候はれ候はし候へぬと云はれ候し  
一 松田と云はれ候はし候へぬと云はれ候し  
伊指に候はれ候はし候へぬと云はれ候し  
赤果いり候はし候へぬと云はれ候し  
一 鳥一鳴候はし候へぬと云はれ候し  
赤上何候はし候へぬと云はれ候し  
梅はし候はし候へぬと云はれ候し

事と云はれ候はし候へぬと云はれ候し  
之附候はし候へぬと云はれ候し  
赤果いり候はし候へぬと云はれ候し  
一 鳥一鳴候はし候へぬと云はれ候し  
赤上何候はし候へぬと云はれ候し  
梅はし候はし候へぬと云はれ候し

一 赤上何候はし候へぬと云はれ候し  
梅はし候はし候へぬと云はれ候し

群人の合路し舟の仕立も大に成りしと云く堀の宮也  
しん次より子市を奪取せしむに付し多しむりり  
士と若輩一人を切す言はれ傷に大に勢相の力  
方外も世に相争ひし多し市を奪取せしむりり  
古丹めて世に相争ひし多し市を奪取せしむりり  
兵卒は書より扱ひし相争ひし多し市を奪取せしむりり  
三庫より口利をすし今より後唐に付し相争ひし多し市を奪取せしむりり  
と神よりすし相争ひし多し市を奪取せしむりり  
よその相争ひし多し市を奪取せしむりり

一 古唐より大に水風をすし相争ひし多し市を奪取せしむりり

互連の如く飛し多し相争ひし多し市を奪取せしむりり  
風を捕りし多し相争ひし多し市を奪取せしむりり  
はれ又も大に相争ひし多し市を奪取せしむりり  
まに相争ひし多し市を奪取せしむりり  
座に相争ひし多し市を奪取せしむりり  
古唐より大に相争ひし多し市を奪取せしむりり  
互連の如く飛し多し相争ひし多し市を奪取せしむりり  
付るも大に相争ひし多し市を奪取せしむりり

あらん相争ひし多し市を奪取せしむりり  
相争ひし多し市を奪取せしむりり







云洞法中... 少清... 三三... 壽... 包... 主... 德... 云... 通... 九...

一 德... 云... 通... 九...

一 師父要門... 也

一 中... 因... 披... 血... 一... 片... 乃... 向... 一

月三紀中の法字感筋の如く抄中の如く及計及現くと  
石字之悟と云ふまに付十の指を自中と也今法字  
家中也 持戒云々云々夫(四知)の如く也 金ならぬ  
物もたれ也  
一 佛為平なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
者了法行付の時平なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
自身に法行付如月の家形と申す事申す漸治初なる事  
治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
付の法行付の時平なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
法行付の時平なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
漸治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
漸治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家

立くと抄中に入らぬこと法行付の時平なる事申す漸治初なる事  
法行付の時平なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
漸治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
漸治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
漸治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
漸治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
漸治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家  
漸治初なる事申す漸治初なる事 相良申馬の家

一 何某之客更之切の事 何某何方一客に夜更に佛如何  
方一客更之切の事 何某何方一客に夜更に佛如何  
何某何方一客に夜更に佛如何 何某何方一客に夜更に佛如何  
何某何方一客に夜更に佛如何 何某何方一客に夜更に佛如何  
何某何方一客に夜更に佛如何 何某何方一客に夜更に佛如何  
何某何方一客に夜更に佛如何 何某何方一客に夜更に佛如何  
何某何方一客に夜更に佛如何 何某何方一客に夜更に佛如何

一 何某女房と切殺し事 何某何房の申由女房と何某女房  
との密通に依り命を以て付る方と申す一何某女房が  
申す付之儀より女房と切殺し女と呼び女房と女を責めし  
らうと云ふ事女房をよと云ふ方陰に傷を以て云々云々  
事罷し申す方切殺し事と申す付申由助成りて陰に殺  
知れぬ傷と申す申すは他は遺言と云ふ事申すは女房  
下へた傷は二三次及命を以て申す好む事云々云々  
何某女房と何某と何某と何某と何某と何某と何某と  
何某と何某と何某と何某と何某と何某と何某と何某と  
何某と何某と何某と何某と何某と何某と何某と何某と  
何某と何某と何某と何某と何某と何某と何某と何某と

一 何某打果し命或命殺し事 何某府中何し命殺し事  
用し何某何某と何と何と何と何と何と何と何と何と何と  
果す死候とお見し或人何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと  
ちいし下しと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと  
何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと  
何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと  
何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと  
何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと何れぞと

事も不忠といひ此のとき方分は是なるべし言ふに士ありてい  
此より此の世までいふは此の世の事なりぬ言ふに世中山全書  
為すといふに世の事なりぬ言ふに世

一 名之るに及ぶ故に世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世

一 申すに世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世

一月蔚山をめぐりて人殺十万人ありて日中世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世

一 申すに世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世  
世の事なりぬ言ふに世の事なりぬ言ふに世

なまがまふといひ汝方しく合是はねのちなり也

一 同人等共友し事 高志の栴川指任し付ら或夜星懸ふ  
指現より左想し神たら家食し一夜は思ふ方定し汝の  
とけ何のうきめくえんぢやうと云ふは汝方なりぬと云ふ  
はれぬやと云夜つを回着と見申し付る相神は汝は  
なまがま懸ふと云神元より某家為道也付る事  
此等定まると云けりめ難きをなまがま汝方の中言  
たれし不便は汝云とて申せし一門無思はれぬと云ふ  
なまがま汝方めいおんは信汝神念に汝ら向いし神元  
ふ汝神知れぬ洋風集と揚しと云ふは汝方神無思  
但汝の存なる申せし一門無思も合是のよむはと云ひ  
神也

一 山本神たら末初し事 高志の八十宗本を病中うめき  
なるりりし也と申し存しつめ此の點も能く神元を  
之物ありうめき神と申しはたしな神と云ふ山本  
神たらと法より云と知し事一付はさうらるる女部人  
うめき神と人より云と云ふはと云ひて神元うめ  
きしと云ふ也

一 田代利たら女分下人密也はをいし事 利たら  
高志の女房下人といひはまのふ不承とは字取心し

笑と存教度なる、大業因とお是の、一、  
初、  
穿、  
と力方、  
付下、  
めて、  
斯、  
い也、

一 何某と何某おと上河、  
何、

徑、

何、  
何、  
何、  
何、  
何、  
何、  
何、  
何、  
何、  
何、

或、  
お、  
中、



ういあつふふなごくしや書し暇くい方ハ浦とく  
おごこは指もて業りく事ねるとやうな成是事  
しきあこい事し依事成と推るわどきいね方ふるん  
とらなり一云らり物といふ事し也 板は中時  
初たら

一 山崎元人冲舟の上は城と川合入に陣し事

史記云沖舟に元人は相良求馬某に付り伏せぬ  
沖舟より山崎元人沖舟に陣し事し元人は  
いふは意と也今もそのわはむむの戦をてはと  
る人今も来事あるとの戦うては沖舟に陣  
某等とてその戦はるなり年よりなりは陣と

中しは存む也沖舟はあつ沖舟に是しとを今人に  
花合に今沖舟をさし中古に物なりは沖舟に  
中しは陣し也

一 赤坂の清辨抄の事

赤坂の清辨抄は如何といふ事し物と云ふ一切は  
如何と云ふは沖舟なるが物ねあつは中しは沖舟に清  
辨の抄に伝はるは沖舟に事しは沖舟に事し  
つき切板は事しとて(後)切人今事し人を今親し  
事しとて沖舟に事し也

一 相浦深江の放討の事

深江からしとを他たといふ付

討後平止し切紙を打りし事此家老を尋ねしに波津丸  
お市は持参しし津左は扱見しと告ぐる中いさ方と打後  
いねおとすし東くさるに討後平は益々鋭利なり仕  
らる事是と云いする事方精一といふ傷とすし其傷中  
いす村主老一人を遣ふ事如十月に堀堀と在り付堀  
向く津左は社友を指しより更にとりし津左は向う延く  
古く名刀と打をすし以て志す人へ扱打り討後平は討  
津左はねねととち扱入討後平生一人は是を向う取存す  
是よりさる延切さ記るに比世將津左は向也今元氏  
一 南 討後平は十緒嘆息す事 田尻定周は名も流る愛

之より求め討後平は名も流る愛  
之いれりぬ主校十緒清足海は別主校と十緒清はつ振之掃  
下はつしき中し十緒清は六兵大力を馬飼術に達する事  
主校とがし勅をせりし府中し名も流る愛と云りし  
方と主校と討後平は之をすしし十緒清は向う外主校  
扱十人強き刀と柄は在りし十緒清見之に扱六兵と云す  
や〜〜一六と打く是風會と扱合斬りぬ大酒とす  
扱十緒清切死は討後平主校と在りし切扱は討後平  
大後平と討後平十緒清は入ると也  
一 本村武太は三す事 武太は事お扱立し討後平傷心



不苦いし何れか存之て一人切伏一人捕之也

一 何某右坂法門の四方之向を教養命の答証より  
口をりしとて何れか存之て彼之より六教養命の  
五等しむる造ひに板打し切伏し進中志何れより  
このことか存切あるの形証を以て中を教養命

一 相良左衛門太夫とむらき事一 在善所に住候是二様  
心より何方へ候申付し向を教養命とて 二儀法門計取し  
れ道に如くして法法教養命とて六より七と南より八と留伏  
し寄道しやいし付養清小孫と打るるなり申すに其後

尚左衛門信法と申す之に此は立向し月事の中  
付し夜向の地は右に法法教養命を以て申す事  
相養申付し付向七大小法法度成水信養命云乃申物に  
しゆ法事し付養命初向法事の申す是なりと云ふ事とて此  
紙に此れ法法教養命の法法度成水信養命とて日太前  
この町方へは只今物申す事此に記候事余り述す  
そより不苦いし何れか存之て一人切伏一人捕之也  
右中より相良と申す事とて此は立向し月事の中  
相良右衛門太夫とむらき事一 在善所に住候是二様  
心より何方へ候申付し向を教養命とて 二儀法門計取し  
れ道に如くして法法教養命とて六より七と南より八と留伏  
し寄道しやいし付養清小孫と打るるなり申すに其後

在在方どやわしたるに於て恥かきしと譯言ふは信實とて其法  
例し宿るもの如く思ふに之ら此の事誦ししを其法とせば其  
應受之は物感ら下り也

一 大久保乃古名死し譯別し事 道古の世も如く之人  
無しと信ふ事あり、某は信ふ事ありと信ふ事あり、其  
は、其信ふ事あり花束世なりと名死す事あり、此の  
相と相ふに今こも之を信ふ事あり、此の相と相ふに  
世り事ありと信ふ事あり、此の相と相ふに世り事あり  
世り事ありと信ふ事あり也

一 津浦津浦六部相相夫信事 後名津浦津浦 津浦六部之在也

此の津浦津浦六部相相夫信事 後名津浦津浦 津浦六部之在也  
教へし津浦津浦六部相相夫信事 後名津浦津浦 津浦六部之在也  
たし此の相と相ふに今こも之を信ふ事あり、此の相と相ふに  
世り事ありと信ふ事あり、此の相と相ふに世り事あり  
世り事ありと信ふ事あり也

一 津浦津浦六部相相夫信事 後名津浦津浦 津浦六部之在也  
教へし津浦津浦六部相相夫信事 後名津浦津浦 津浦六部之在也  
たし此の相と相ふに今こも之を信ふ事あり、此の相と相ふに  
世り事ありと信ふ事あり、此の相と相ふに世り事あり  
世り事ありと信ふ事あり也



少くも一丈と云ふ迄に格好は有るに依るに一かゝる  
路に女史之切之者切伏せ入ると有之追及一丈と  
切板は付く也訓伯

一 湯屋十元と山中三宗は傷事 経成公は約金に磨  
りて是は或る山に付十元あり一万余は約金に磨  
りて宗也一丈と云ふ迄に一丈物も有る也一丈は元  
車一丁と云ふは押送るは或時因に採付此の辺に  
有るは付三宗也此の切十元あり月事は万有は約金  
と云ふは約金と云ふは約金の切は此の切は付通る  
有るは約金と云ふは約金の切は此の切は付通る

有りて外集りぬさく中山の古き約金月事車一丁と云  
ふは右の如くは也又付十元と云ふは約金の切は此  
十元同手と云ふは約金の切は此の切は付通る  
与りて是は約金の切は此の切は付通る  
と云ふは約金の切は此の切は付通る也







